

# SDGs「世界を変えるための17の目標」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



## 取組事例 in おおつ

令和2年3月



# SDGs「世界を変えるための17の目標」取組事例 in おおつ

## 目次

<b>1 テイクアウトのプラごみ削減</b> (立命館大学 Sustainable Week 実行委員会)		…… 2
<b>2 お出かけ支援サービス“むつみ”</b> (国分一丁目四区自治会)		…… 3
<b>3 宅配「1回で受け取ろう！」キャンペーン</b> (大津市地球温暖化防止活動推進センター)		…… 4
<b>4 児童公園のベンチ椅子作製</b> (日吉台一丁目南自治会)		…… 5
<b>5 子ども食堂に関する取組</b> (富士見学区社会福祉協議会)		…… 6
<b>6 起業という選択で社会で活躍する女性を応援する仲間づくり</b> (女性の起業を応援する会)		…… 7
<b>7 その他の応募いただいた取組</b>	…… 8	
○小規模事業者にもSDGs金融の道を拓く “見守る金融”スキームの構築「SDGs保証」 (滋賀県信用保証協会)		
○地域とともに、地球とともに…SDGs関連講座 (平松 紀代子さん)		
○食品衛生に係る啓発活動 (大津市食品安全リスクコミュニケーター)		
○SDGsへの理解を深め、SDGsの視点で プラスチック問題を考え、共に解決を目指す取組 (特定非営利活動法人おおつ環境フォーラム、 特定非営利活動法人滋賀県環境カウンセラー協会)		

平成27年(2015年)9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)」については、世界の各国を始め、民間企業や研究・教育機関、地方自治体などにおいて、その推進が掲げられ、様々な取組が進められているところです。

そのような中で、多くの市民の皆様等に、SDGsを「遠い世界のどこかで誰かが取り組むもの」ではなく、「私たち自身とつながるものであり、それを通じて世界を変えることに関わることが出来るもの」と感じていただき、まずは、それぞれに手が届く身近なことから取り組む一歩を踏み出していただくためのきっかけづくりのため、市民や、市内の団体・地域などによる具体的な取組の事例について、広く市民の皆様等にお知らせすることを目的として、令和元年(2019年)11月から12月にかけて、SDGsの取組事例を募集しました。

このたび、応募いただいた中から、公表させていただく事例を取りまとめましたので、SDGsに関して取り組まれるにあたり、参考にいただければ幸いです。

# 1 テイクアウトのプラごみ削減

令和元年（2019年）12月～

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

大学内で販売される焼きたてのパンを包装する際、小さくて薄いビニール袋に1つ1つ分けて、その後全てをまとめて大きなビニール袋に入れてくれますが、パンを直接包装する小さくて薄いビニール袋は、パンを食べ終わると、ごみ箱に行くだけです。そのためだけに、ビニール袋を何枚も消費するのはもったいなく、プラスチックごみの増加にもつながります。

また、大学で多く排出される紙のごみ（平成29年度（2017年度）、立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおける紙の使用量は、A4用紙 20,787,313 枚分）を何か再利用できないかとも考え、大学内で出た紙ごみを再生紙にして、パンを包装するビニール袋を、再生紙を利用した紙袋にしてみてもどうかと考えました。



## 提案

生協コンビニ・アクロスウィングのパン屋で  
紙袋を利用する



1つ1つビニール袋に詰めるのは  
もったいない



紙袋にパンを直接入れる

## 取組により得られる成果・効果

大学内の紙ごみを再利用できる点と、パンのビニール袋を削減できる点の、2つの無駄を省けます。

## 取組を進めるための課題

ビニール袋よりも紙袋は値段が高いためコスト面が心配です。

また、再生紙の紙袋だと、カレーパンなどの揚げ物になると油が紙にしみてしまうということが課題です。

## 今後、連携していきたいステークホルダー

大学で出た紙ごみを、パンのような食品を包装する紙袋にするということを行った前例がないため、分からない部分も多く、そのため、再生紙に詳しい業者の方に直接お話を聞き、ご相談させていただきたいと考えています。

また、紙袋のデザインも考えていきたいと思っているのでデザイン関係の方とも連携できたらと考えています。

12 つくる責任  
つかう責任



パンを食べる消費者が、無意識に大量のビニール袋を使用し、すぐに捨てているという現状を知ることにつながります。

14 海の豊かさを  
まもろう



ビニール袋を使用せず、再生紙を使用した紙袋を使ってパンを包装することで、プラスチックごみを削減し、海洋汚染を防ぐことにつながります。

## 2 お出かけ支援サービス“むつみ”

平成30年（2018年）1月～

国分一丁目四区自治会

自治会が高台にあり、公共交通機関も不便で、高齢化が進み、要支援者等も増えてきており、買い物や通院等の外出が困難となる方が増える中、互いに助け合い、自家用車での送迎活動を始めました。

- 利用できる方は、車の運転ができない方や家族の手助けが受けられない方等に限定。
- 支援できる方は、名簿を作成。
- 行き先は、原則として市役所以南の大津市内、病院や駅を中心に、片道単位で利用。
- 時間は、原則として、午前9時から午後5時まで。
- 申し込みは、前日までを原則とするが、当日申し込みにおいても可能な限り支援できる方との調整を行う。
- 利用者負担は無料。



### 取組により得られた成果・効果

外出が困難な方の手助けとなっているだけでなく、住民同士の交流にもなっており、普段から声をかけ合える関係につながっています。今後、ますますの高齢化が進む中、地域に住み続けることができるようなまちづくりに、つなげていきたいと考えています。

### 取組を進めるための課題

事故時は、支援する方の自動車保険で対応することとしていますが、不安はあります。  
また、法律上の問題もあり、無料としていますが、謝礼を払いたいという利用者もおられます。

### 今後、連携していきたいステークホルダー

地域に近く、買い物場所となるスーパーマーケットと連携したいと考えています。買い物場所の存続は、自治会にとっても重要です。荷物を持って坂を上るのが大変な方を、スーパーマーケットの駐車場まで迎えに行き、利用者には割引等のサービスをしてもらえれば、双方にメリットがあります。このことから、今後、連携が実現すれば、SDGsのゴール8「働きがいも経済成長も」にもつながり、また、ゴール17について、民間事業者とのパートナーシップも進められると考えています。



11 住み続けられるまちづくりを  
高齢者等が、病院など必要な場所に出かけられるよう支援を行います。

17 パートナーシップで目標を達成しよう  
自治会住民の助け合いによって成り立っています。

# 3 宅配「1回で受け取ろう！」キャンペーン

令和元年（2019年）10月～12月

大津市地球温暖化防止活動推進センター

留守などのために宅配便で送られてきた荷物が受け取れず、再配達になる率（再配達率）が、国の調査では全国で約15%に及ぶといえます。再配達に伴って、CO<sub>2</sub>の排出が増えることとなりますので、荷物を送る側も、受け取る側も、一度で済ませるように気配り、工夫をすることで、地球温暖化防止に役立っています。

そのため、お歳暮やクリスマスの贈り物で荷物が増える季節である10月～12月をキャンペーン期間とし、チラシを配布したほか、11月24日には、イオンスタイル大津京において、次の内容で記念事業を開催しました。



- なぜ、キャンペーンが必要か、温暖化と気候変動の現状に関するパネル展示
- 宅配1回で受け取るための工夫として、ヤマト宅急便のLINE利用による受け取り日時の変更通知の手続き紹介と、置き配用バッグ「OKIPPA」の現物展示
- お楽しみミニライブ（ギター演奏とトーク）

なお、この事業は、環境省の2019年度二酸化炭素排出抑制対策事業として実施しました。

## 取組により得られた成果・効果

宅配の再配達が多量なCO<sub>2</sub>の排出になるという事実を、市民が再認識することに役立つことができました。

## 取組を進めるための課題

再配達を減らすには、心がけだけではなく、具体的な行動が大切です。その一案として、宅配業者等と連携して、スマホ等を利用した再配達防止のツールを、受取人（購入者）に広め、意識を高めることが必要であると考えています。

## 今後、連携していきたいステークホルダー

荷物の発送人（販売者）、宅配業者、受取人（購入者）のネットワーク。



宅配便を利用する物品販売業者・物流業者・消費者（購入者）が、それぞれのサイドにおいて、つくる責任・つかう責任を果たすことが重要です。

再配達に伴う余計なCO<sub>2</sub>の排出を抑えることによって、温暖化を防止し、気候変動への影響を少しでも減らします。

## 4 児童公園のベンチ椅子作製

平成28年（2016年）7月

日吉台一丁目南自治会

自治会内にある2つの公園には、コンクリートのベンチしかありませんでしたが、社会福祉協議会の廃棄処分のベンチ椅子4台をいただき、解体し、脚の溶接や、廃材を利用しての修理、ペンキ塗り等を重ねて、4台のベンチ椅子を作製しました。現在は、公園の利用も増え、椅子もゆったりと利用され、皆さんに喜ばれております。（延べボランティア人員 8名）



### 取組により得られた成果・効果

公園の利用者が増え、子どもだけでなく、親同士の会話が生まれ、友達になりました。  
ベンチ椅子作製にあたり、ほかの町の教えを受けて、交流が生まれました。  
また、2週間にわたり作製に携わった人たちの交流が生まれ、次年度の事業にもつながりました。

### 取組を進めるための課題

初めての試みであり、人員の募集や、日程調整に苦慮しました。



廃棄処分予定の椅子や廃材を無駄にせず、利用することで、地域における交流も生み出すことができました。

# 5 子ども食堂に関する取組

平成29年（2017年）4月～

富士見学区社会福祉協議会

子どもの貧困対策として、子ども食堂を開設しました。対象は、学区内の小学生で、参加者募集の段階で「貧困対策」のイメージを払拭する目的で、「子どもサロン」としましたが、内容は子ども食堂です。

当初は、児童クラブへの働きかけで、大勢の児童が参加しましたが、人数を制限し、参加人数は落ち着きました。

開催頻度は月に1回（第1木曜日）、午後4時頃から市民センターに集まり、宿題やゲーム、ペーパークラフト等で遊び、夕食まで過ごします。夕食は、地域のボランティア、社会福祉協議会役員、健康推進員が準備します。

地域に展開するスーパーマーケットから、「お米券」をいただき、活用しています。



静かに宿題中



オリジナルのすごろく遊び



楽しい夕食

## 取組により得られた成果・効果

子どもたちの居場所となっており、子ども同士や地域の大人とのつながりの場となっています。

## 取組を進めるための課題

公共施設を利用するという性質上、制限が多く、本来は、子どもたちにも食事の準備や調理などに関わってもらうなど、食育の視点も重視したいのですが、実際に関わってもらうことが困難です。

また、社会福祉協議会の会費のみで運営しているため、多くの子どもたちを受け入れ続けることが困難です。

「常設型」ではなく、「いつ行っても誰かがいる」というものではないため、学区内に、常設型の子ども食堂があって、社会福祉協議会が補助金を出し、地域の農家・ボランティアは、食材等を持ち寄るといったのが理想的な姿だと思います。

## 今後、連携していきたいステークホルダー

ほかで取組があるように、地元産品や消費期限の近い食材等を提供してもらうなど、農家や事業者などと連携できれば、活動の持続可能性が高まり、食品ロスの削減にもつながります。今後、実現できれば、ゴール1 2「つくる責任つかう責任」、1 7「パートナーシップで目標を達成しよう」にもつながると考えます。



月に1回ではありますが、子どもの貧困の問題に対する取組となります。

月に1回ではありますが、子どもの飢餓の問題に対する取組となります。

子ども食堂の場を通じて、互いに学びあうことができます。

# 6 起業という選択で社会で活躍する女性を応援する仲間づくり

平成26年（2014年）2月～

女性の起業を応援する会

起業を目指す女性及び女性起業家を応援することを目的とし、起業についての学習会、起業を目指す女性・女性起業家及びそれらを応援する人たちの交流を行っています。

「起業を目指す女性・女性起業家のためのブラッシュアップセミナー」と題して、年4回のセミナーを開催しています。このブラッシュアップセミナーでは、勉強会や、女性起業家によるプレゼンテーション、交流会を行い、参加する方々が互いの刺激となったり、互いを応援し合えたりするよう構成しています。私たちの活動は、支援する側と支援される側に分かれるのではなく、互いを応援し合う仲間づくりです。

そのほかにも、これまで民間企業や団体、行政との連携や共催で、主に女性を対象とした様々なイベントなどを実施してきました。



女性のための起業応援セミナー（近畿財務局大津財務事務所、近畿税理士会大津支部と共催）

## 取組により得られた成果・効果

少し先を行く女性起業家の背中を見ることで、また等身大の人物との交流をすることで「私にも何かできることがあるかも知れない」「私も社会で役に立てるかも知れない」などと考え行動する女性と多く出会うことができ、起業仲間というネットワークを構築することもできました。

## 取組を進めるための課題

取組の継続のためには、それぞれの参画者（メンバー）が、多忙な時間を割いて、会の活動のためのボランティア時間を作らなければならないことが課題です。

## 今後、連携していきたいステークホルダー

行政はもとより、男女問わず先輩である、起業家や経営者及び NPO の方など、女性の起業を応援していただける方や、副業での起業を目指す社員という立場の女性などです。



ジェンダー平等の視点からも、労働力不足を補い持続可能な経済成長や雇用を支える意味でも、起業という選択で活躍する女性が増えることは大きな意味のあることだと捉えております。

起業という選択で自己実現が達成されたり、働き甲斐のある仕事につけたりすることは素晴らしいことだとも思います。また、女性起業家は、女性を多く雇用すると言われており、アクセラレーターとしての女性が増えることで、地域の活性化等を持続的に進めていく一助となることを目指します。



# 7 その他の応募いただいた取組の例

## 小規模事業者にもSDGs金融の道を拓く“見守る金融”スキームの構築「SDGs保証」

平成31年（2019年）4月～  
滋賀県信用保証協会

小規模事業者のSDGs達成に向けたトライアルを支援するため、出資に近い形の短期継続融資を活用し、その取組を見守る保証制度を創設しました。

申し込み時に、事業者が「わが社のSDGs宣言書」を作成することで、SDGsへの理解を深め、具体的な目標を設定することにつながるとともに、早期に目標を達成すれば、以後の保証料割引を実施します。

金融機関、取引先やエンドユーザーに向けた企業価値向上につながるきっかけづくりを応援しています。



## 地域とともに、地球とともに・・・SDGs関連講座

令和元年（2019年）10月～  
平松 紀代子 様

乳幼児の子育て中の親子等の居場所、滋賀大学の「かんばん一む」を活用し、その保護者を対象としてSDGs関連講座を開催しています。大学生による保育も提供しています。

講座の内容は、「食の安全性」「安心・安全な乳幼児の衣生活」「パネルシアターと鍋帽子（鍋にかぶせて保温する帽子）づくり」「子どもと暮らす住まいの工夫」「鍋帽子活用体験報告&レシピ」「耳ヨガ&布ナプキンと生理の話」「1年の振り返りと新年度の抱負を語ろう」です。



## 食品衛生に係る啓発活動

令和元年（2019年）10月  
大津市食品安全リスクコミュニケーター

2019おおつ健康フェスティバルの食品衛生啓発コーナーにて、子どもやその保護者を対象に、「手洗いの大切さと正しい手洗い方法」についての劇や紙芝居を行いました。



また、大人向けに「お家の中の菌事情」という動画を作成し、台所での食品衛生について、啓発を行いました。



## SDGsへの理解を深め、SDGsの視点でプラスチック問題を考え、共に解決を目指す取組

令和元年（2019年）11月  
特定非営利活動法人おおつ環境フォーラム  
特定非営利活動法人滋賀県環境カウンセラー協会

県内にもっとSDGsを広め、SDGsについて学び、その視点でプラスチック問題を考えることを目的として、「SDGsセミナー2019」を開催しました。

SDGsカードゲームを行うとともに、講師からはEUの脱プラスチック等の市民生活なども紹介されました。

また、県等から情報提供があった後、プラスチックの3Rをテーマにワークショップを開催し、循環型社会形成のためにプラスチック問題をどのように解決すれば良いか話し合いました。

